

ホッとHOTなまちをつくらう

～日光市中心市街地活性化基本計画～ その①

今市市街地の大通りを中心とする、JR今市駅と東武下今市駅にはさまれた地域(以下、中心市街地という)では、平成28年3月までかかる、大規模な事業が進められています。市民の皆さんに知ってもらうため、この事業について、6回にわたって紹介します。



中心市街地の昔と今

約30年前、今市市街地大通り(以下、中心市街地)は店がたくさん並び、商店会も10組織あるなど、活気がありました。地元の人、日光や藤原、足尾、栗山からも多くの人が買い物や遊び、食事に訪れました。また「長崎屋」と「いせや」という大型スーパーがあり、アイドル歌手が屋上でサイン会を開いたり、全日本プロレスが駐車場でショーを行ったり、多くの人が楽しめるイベントやお祭り、ぎやかに開かれ、たくさんの方が集まってきました。時が流れて現在。大型スーパー2店舗の閉店もあって、中心市街地にはシャッターの下りた店が増え、各店を訪れる人も減りました。その一方で、郊外には広い駐車場を備える大型店舗が次々に出店。市民の買い物の拠点となっています。



買い物客で混雑するいせや前

にぎわいを取り戻したい

「人が集まる街、楽しい街、暮らしやすい街、ずっと住みたくる街。そんなまちを創りたい。」にぎわいを失い、寂しくなっている中心市街地に、昔のようなにぎわいを取り戻そうと、商店会や地域の人が立ち上がりました。

平成19年12月に日光市中心市街地活性化協議会を設立し、まちを元気にする計画について、検討を重ねました。そして、平成22年4月に計画案をまとめ、市長に提出しました。その後、この計画案は「日光市中心市街地活性化基本計画」として、内閣総理大臣の認定を受け、国の支援を受けられるようになりました。

生まれ変わるまち

それでは、中心市街地はどんな街に変わるのでしょうか？



長崎屋のオープンを待つ客の列

基本計画にある3つの基本方針を紹介いたします。

①文化・交流の促進

歴史遺産や名所を活用し、「まち歩き」や「歴史を学ぶ・体験する」といった楽しみを広げます。また、地域の人たちが中心となって行うイベントや祭りを応援して、にぎわいの創出を図ります。

②商業活動の促進

日常の買い物に便利にするため、不足する業種店舗の開店に取り組み、日光産の農産物や特産品などの魅力を活用して、購買客を増やしたりします。

③定住の促進

中心市街地は、歩ける範囲で店舗や病院、銀行、市役所の窓口などが集まっています。高齢者や子育て世代などの皆さんにとって、生活しやすい場所です。住みやすさをさらに高め、多くの人が住みたいと思う街にします。

中心市街地が、そこに関わる皆さんの計画で変わろうとしています。そして市は、地域の皆さんと一緒に、まちづくりに取り組んでいます。

この連載についてくわしくは
まちづくり推進課 ☎(30)1176

〒321-1431 日光市山内 2388-3 TEL: 50-1200
ホームページ http://www.khmoan.jp/

(1枚につき、5名様まで有効)

切り取ってご利用ください

展覧会のご案内 「selection 2013 小杉放菴」

日本の近代美術史上に多彩な足跡を残した日光出身の画家・小杉放菴(1881~1964)の名前を冠する美術館として、所蔵する小杉放菴コレクションの中からえりすぐりの作品を一堂にご紹介します。最初の雅号、未醒の時代の洋画から、放菴と改号してからの日本画まで、生涯にわたる画業をご覧いただけますので、ぜひ、ご来館ください。



小杉放菴「漁楽図」(幸文庫旧蔵)
小杉放菴記念日光美術館蔵

会期: 4月13日(土)~5月26日(日)
休館日: 毎週月曜日(祝日・振替休日の場合は開館し、翌日を休館)
開館時間: 午前9時30分~午後5時(入館は午後4時30分まで)
入館料: 一般...700(300)円、大学生...500(200)円、高校生以下...無料
※()内は市民割引券を利用した際の料金です。



美術館キャラクター、ジンジャクんと仲間たち。向かって左から、みゆき、へびくん、ジンジャくん、ミョージョーくん、たくみ、飛んでいるのはリュウさん。「今月からぼくたちが美術館のイベントをご紹介します!」

歴史民俗資料館通信

日光市中央町29-1(今市図書館隣) ☎(22)6217
開館時間 午前9時~午後6時(入館無料) 休館日 月曜日、祝日

企画展紹介①「飢饉を乗り越える」

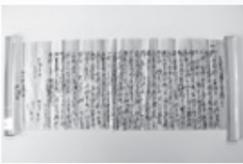
大室村荒地起返絵図



大室村荒地起返絵図

江戸時代、度重なる飢饉によって日光市域の村々では、荒地が増え、大室村が天保13(1842)年以降の荒地復旧の年々の成果を示しており、安政2(1855)年2月に日光奉行所に提出したものの下書きです。天保13(1842)年、大室村には、全耕地76町歩余のうち11%に当たる8町2反歩の荒地がありました。このうちの5町2反歩が嘉永6(1853)年までに、残る荒地もその後すべに復旧しています。●作恐以書付奉願上候

提出された願書で、飢饉時の緊急の措置として売木の許可を願っています。これ以降、売木の制限は有名無実化し、当地で林業が盛んになるきっかけとなりました。●小百のワラ人形 小百では2月3日の百万遍の際に悪疫や悪霊の退散を祈りワラ人形を村境などに立てる習俗が今も続けられています。悪疫退散を祈りワラ人形を立てる習俗は東北地方などに広く分布していますが、飢饉に伴う疫病の流行がこうした習俗の発達に影響したと考えられる研究者もいます。



作恐以書付奉願上候



小百のワラ人形

◆企画展「飢饉を乗り越える」
4月6日(土)~6月30日(日)